

■ 利用制限

当公園は開放公園であることから出入口の一斉閉鎖措置はとれませんが、危険情報の提供と立入禁止等の措置について、公園入口付近や駐車場進入路等に看板やカラーコーンを設置して周知します。駐車場やログハウスの利用制限については、公園や施設内に利用者がいること自体が危険と判断される警報発令時には、現場責任者である管理事務所長が決定し、即実施するとともに藤沢土木事務所へ報告します。

■ 緊急時対応訓練の実施

社員及び委託業者を対象に、救急救命講習と避難誘導訓練を関係機関とも連携して実施し、訓練で得られた知見を災害時行動マニュアルにフィードバックして隨時更新し、緊急事態に備えています。利用者の多い施設であることから、消防職員による「消火・人命救助に備えた救急救命・避難誘導講習」及び避難タワーを活用した津波避難訓練の実施により、災害発生時の対処スキルの向上に努めています。



緊急時対応訓練

(2) 急病人等が生じた場合の対応

軽度の切り傷等のけがに対しては、社員がサーフビレッジ救護室において、常備している消毒薬、絆創膏等により処置を行います。発作・急病や意識障害のほか、大量の出血、骨折が想定されるなどの場合は、社員の判断あるいは本人の要請で救急出動を要請します。

■ 救急救命講習の実施

藤沢市消防局講師による救急救命講習を実施し、心肺蘇生法、止血法等の習得に努めています。本公園は AED(自動対外式除細動器)設置施設であり、サーファー等海岸利用者も多いため、AED の使用方法も訓練し、いざという場合に備えています。

■ 水難事故救護活動への支援

サーフビレッジ1F には日本ライフセービング協会、サーフ90の器材庫があります。その活動を側面から支援するとともに、水難事故発生等緊急時には消防、警察への通報、救助本部としての多目的ホールの使用など、急病人等への積極的救助・救護活動を支えています。



水難事故救護活動

(3) 水防時の避難誘導や公園の利用制限（緊急対応重点公園のみ）

大雨、台風、強風等により大雨、高潮、波浪、洪水の警報が発令され、利用者の避難誘導が必要と判断される場合、社員により、公園及び海岸利用者に対して館内・園内放送、防犯スピーカー、ハンドスピーカーによる護岸からの呼びかけを行い、サーフビレッジ等への避難誘導を行います。

当公園は常時開放されており、出入口の一斉閉鎖措置は取れませんが、藤沢市消防局とも連携し、主な公園出入口への立入禁止看板設置、ロープ、コーン等による公園や海岸への立入禁止措置、サーフビレッジ及び駐車場の利用制限あるいは閉鎖措置をとります。

提案書 10 「当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初動体制等への対応、
大規模災害発生時の公園の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方」

(1) 当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初動体制等への対応

■ 初動時の配備体制

勤務時間内に震度 5 以上の地震が発生した場合は、来園者の安全を確保するため、また、勤務時間外に発生した場合は、公園外からの避難者がいる場合を想定し、次の体制を確保します。



■ 津波注意報・警報、大津波警報、東海地震注意・予知情報発令時の対応

上記 A・B とも、津波注意報・警報、大津波警報、東海地震注意・予知情報発令時は、公園利用者の安全な高い場所(津波避難タワー、サーフビレッジ中央展望台、当公園近辺の津波避難ビル)への避難誘導を優先して行います。

(2) 大規模災害発生時の公園の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方

■ 災害に備えた地元自治体、地域住民との連携強化

藤沢市防災危機管理室とは年1回、共同で津波避難訓練を実施、災害時の協力についても協議しています。また、鵠沼市民センターをはじめとする公園利用団体で作る友の会メンバー14団体には、総会、幹事会等の機会に津波避難訓練の案内を行うほか、地震・津波発生時の避難についての意見交換を行っています。



友の会総会での意見交換

■ 利用者への意識啓発と津波避難場所の周知

津波発生時には、多数の海岸利用者、公園利用者の各自判断による迅速な避難行動が生死を分ける場合もあるため、南関東地震等による津波対策として、津波避難場所を明示した手作りの「津波避難場所位置図」(p. 36をご参照ください)をサーフビレッジ内数箇所に配架し、利用者の意識啓発と安心・安全の確保に供しています。

■ 津波避難訓練の実施（1回／年）

津波避難タワーを活用し、藤沢市と共同で津波避難等防災訓練を実施しています。館内・園内放送及び護岸でのハンドスピーカー並びに防犯スピーカーにより、サーファー等海岸利用者、公園利用者等を避難誘導し、スムーズな避難をさせるための訓練を行うことで、利用団体等も含めた関係者一同に対して、いざという時に備えた実地訓練としています。

■ 災害対応物品の備蓄

ハンドスピーカー、懐中電灯、発動発電機、バール、のこぎり、ワイヤーカッター、毛布、飲料水、乾電池、救急医薬品等をサーフビレッジ、ログハウスに、特に津波対策としての利用者用救命胴衣等はサーフビレッジに備蓄しています。また、社員用のライフジャケット、ヘルメットは事務室に配備し、いつでも使用できるよう点検を行っています。さらに、津波避難タワー収納庫にも、スピーカー、テント、オレンジフラッグ、電池等を備蓄し管理しています。

■ 地域企業との連携による迅速な応急復旧対応

地震、津波等により大規模な災害が発生した場合は、当公園の機能確保及び回復のため、県と(社)神奈川県造園業協会の業務協定により土木事務所と連携を取り、藤沢市、茅ヶ崎市等近傍の造園業者に、必要な人員、機械等の出動を要請します。また、公園内の施設や設備を熟知した近隣の電気、水道設備業者等とも連携を取り、迅速な復旧に努めます。



毛布、飲料水、乾電池等



ライフジャケット・ヘルメット

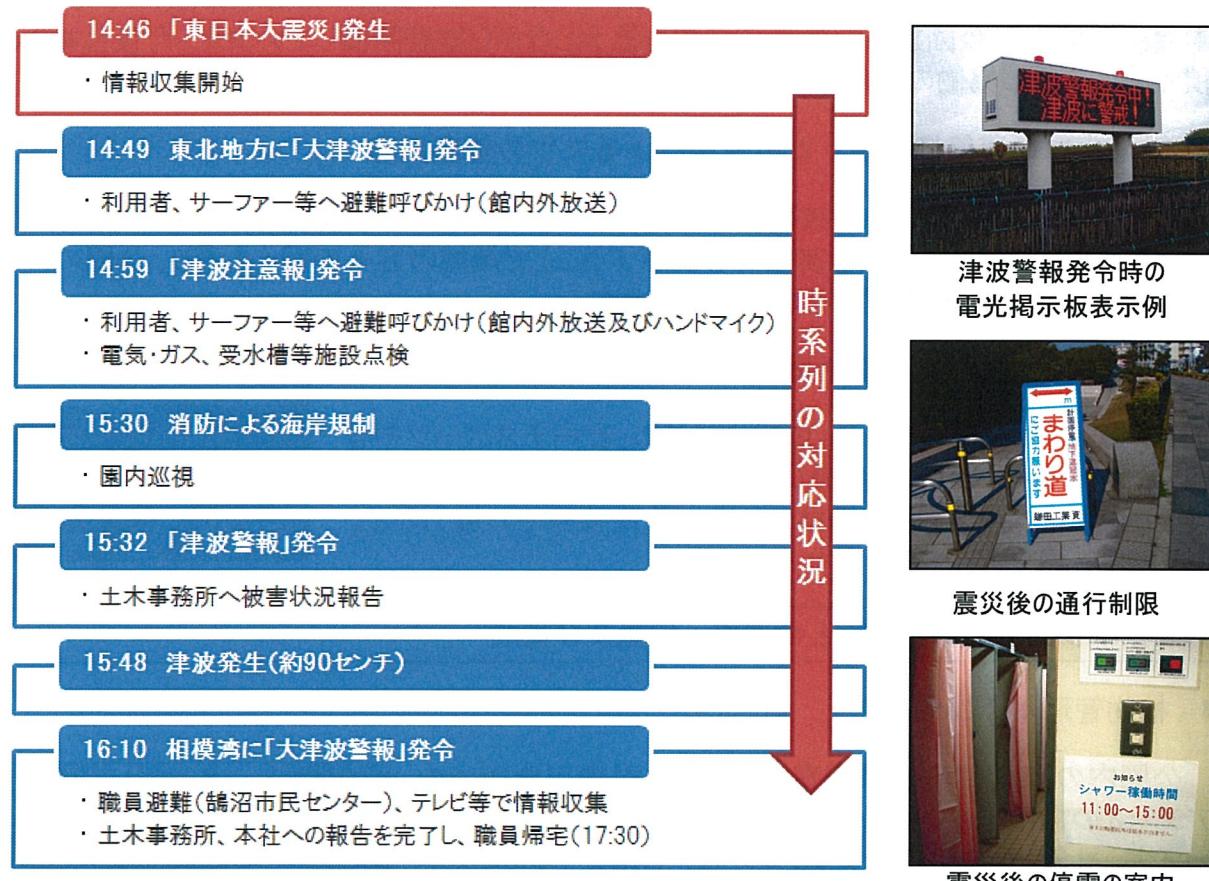


発電機

■ 社員への教育

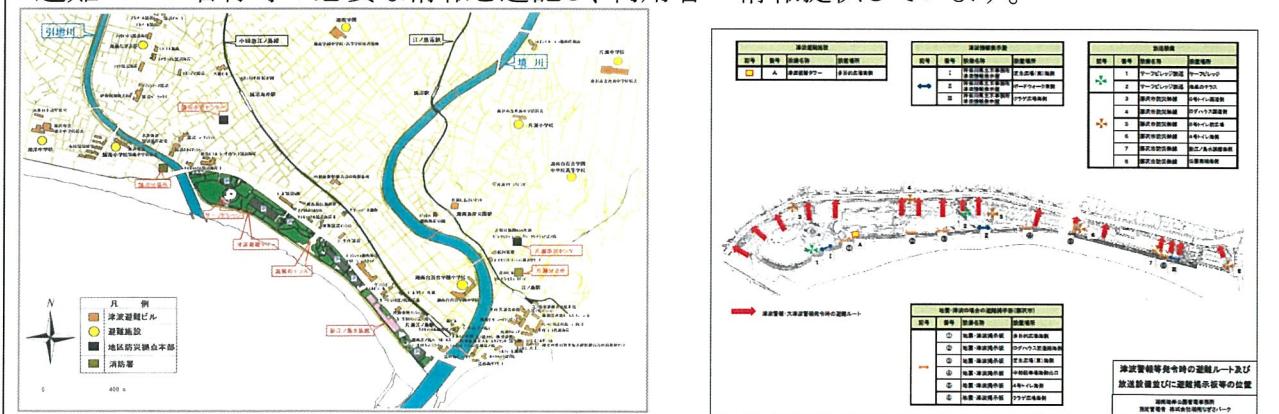
①平成 21 年度に発生した「チリ地震津波」、②平成 23 年 3 月 11 日の「東日本大震災」、③平成 25 年 2 月の「ソロモン沖地震」の大津波警報あるいは津波注意報発令時の避難呼びかけ、避難誘導で多数の利用者を素早く避難させることのできた体験を社員に語り継ぎ、次を想定して部内で話し合いを行うことで、ノウハウとして蓄積し、社員の財産としています。

※東日本大震災(H23.3.11)初動時の社員の対応行動



■ 津波避難場所位置図

震災時対応の考え方方に掲載されている公園周辺の防災関連施設の配置図を基に、津波避難ビルの名称等の必要な情報を追記し、利用者へ情報提供しています。



提案書 11 「地域と連携した魅力ある施設づくり」

(1) 地域人材の活用、地域・関係機関との協力体制の構築

県民や住民参加による活動の分野もボランティア団体数も着実に増加しています。今後も多くの方々の協力の下、イベント開催や維持管理等、様々な協働を発展させていきます。

■ 「湘南海岸公園友の会」運営協力

平成 20 年 2 月に設立した友の会は、利用者視点からの要望の発信窓口ともなっており、本会発案による「公園まつり」は毎年規模を拡大しながら継続開催しています。今後も本会を積極的に支援し協働の取組みによる管理運営の実現に努めます。

■ 「湘南緑の連絡協議会」との連携によるマツの管理指導

植物管理ボランティアへの技術指導として、クロマツの手入れや剪定方法の技術指導を行います。講習会は広く一般参加者にも公開することで地域の方々の関心も募り、公園のマツ林の育成管理にも有益なものとなるよう図ります。

■ ビーチスポーツや各種活動団体への協力

日本ライフセービング協会(JLA)をはじめ、ビーチスポーツや各種レクリエーション団体の活動に対しては、大会や技術講習会等の活動場所や連絡手段の提供、広報や普及啓発での協力など、引き続き支援を行っていきます。



JLA 総会の様子(噴水広場)

(2) ボランティア団体等との連携、協働及び育成

■ 植物管理ボランティア

公園内の海浜植物の保護育成のほか、引地川周辺でのアジサイの植付けなど、愛好家による花作り活動も支援しています。対象となる花壇やプランターなども増えていることから、新規に活動を始めたい団体や個人を募る取組みや、既存団体等との協働による技術指導も行っています。



ハマボウフウの育成活動

■ 公園・海岸美化活動

各種団体が実施する海岸でのビーチクリーン活動や、犬の愛好家による園内の糞の清掃活動に対しては、引き続きサーフビレッジがサポート基地となる形で運営支援や広報協力をを行い、協働作業に取り組みます。



ビーチクリーン活動

■ ライフセービング (LS) 活動

海の安全を守る LS 活動については、海のレクリエーション活動拠点として積極的に協力すべき重要な活動です。水難事故対応時は、有資格者による救護活動を支援し、緊急車両待機場所の確保や連絡調整など必要な協力を行います。

(3) 他の公園、周辺施設との交流・連携

指定管理者は、利用者と県をはじめとする関係諸機関との間のコーディネーターとしての役割を有すると認識しています。関係機関とは日頃から情報共有や意見交換を行って確実な連携体制を構築し、利用者にとって安全・安心・快適な公園づくりに努めます。

■ 他の公園等との連携

管内をはじめとする他の公園とは、公園パンフレットやイベント情報の掲示や配布など情報提供で連携するほか、植物材料やクラフト資材の交換など、引き続き相互協力をしています。

また、周辺地域や県内の他施設等についても、広報を強化する観点で連携します。

■ 新江ノ島水族館との連携

園内の集客施設である新江ノ島水族館とは、日頃から管理作業に関する情報共有や作業時期の調整を行い、園内のウォーキング案内標識板設置の際には協働で企画を行うなど、良好な連携関係を維持しています。平成26年度は館内ウミガメ池の植栽管理でも連携協力する計画です。今後はさらに、同時イベント開催や観光情報提供での連動など運営面も考慮した緊密な連携を図ります。



ウォーキング案内標識板

■ 園内他施設との連携

藤沢市観光協会、藤沢市みらい創造財団とは、イベント情報等を共有し観光情報提供で連携するほか、江の島と一体となつたおもてなし空間の演出においては、観光センター前の花修景や社員による情報提供にアドバイス協力をお願いするなど、関係性を強化していきます。



■ 周辺駐車場との連携

当社が管理している周辺駐車場との緊密な連携により、緑陰駐車場の効率的活用と国道134号線の渋滞緩和に引き続き努めるほか、イベント情報提供など広報面でも連携できるよう、日頃から情報共有を行っていきます。

■ 地元自治体、周辺地域との連携

藤沢市や鵠沼市民センター、地元町内会などに対しては、公園まつりなどのイベント実施の際に協力をお願いするほか、防犯対策や災害への備えにおいても、日頃からよく連携し協力を図っています。地域の方々は利用者であり関係者でもあります。地域の課題にはよく耳を傾け、公園にできることは協力していく姿勢で対応します。

■ 緊急時対応での連携

事故や災害においては、所轄警察署・消防署、救急病院等関係諸機関への迅速な連携を行うため、日頃から緊急時の連絡方法、役割などの確認をしていきます。また、藤沢土木事務所や海岸管理部門である湘南海上保安署への連絡、緊急時の体制などの情報交換をしっかりと行い、緊急時にも迅速に対応できるよう準備します。

(4) 地域企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容

100万円未満の業務委託は地域企業等複数社に見積を依頼し、比較検討して迅速に契約します。また、災害復旧などの緊急時対応に向けて、「緊急時対応業者登録制度」を利用して、地域特性を熟知し、休日や昼夜を問わず即応できる業者を選定します。

(5) 企業のCSR活動（社会的責任、社会貢献）や学校等との連携

■ 企業のCSR活動

矯正施設や精神疾患等からの社会復帰の取組みとして実施される、公園や海岸での清掃や美化活動支援において、情報発信を強化して推進します。また、地域活動支援センター等障害者就労施設との連携を図り、障害者支援にも取り組んでまいります。

■ 学校等との連携

学校関係者には授業での活用方法など学校向け広報を充実するほか、個別案内も行ってニーズを聴取し連携を充実します。職場体験の受入れについても情報提供していきます。

■ 公園での地域貢献活動実績（平成23・24・25年度分から抜粋）

活動名	当社の役割	地域への貢献内容
津波対策避難訓練	主催者	地震発生時に津波対策のため、住民及び海水浴客の避難行動に焦点を当てた、藤沢市の「津波避難訓練」に合わせて、公園管理部として、サーファー等の海岸利用者の避難訓練を目的として訓練を実施した。約200名参加。(2012/7/7)
鵠沼 ハワイアンフェスティバル	主催者	フラダンス10団体約400名、ウクレレ団体約25名、観客数約2,000名が参加して盛大な催しどなった。「フリーマーケット」83店舗約3,000名、「ピーチヨガ教室」(31名)も同時開催し、前回を大きく上回る、約5,500名参加規模となつた。(2013/5/19)
湘南海岸公園まつり	主催者 「友の会」事務局	初めは小雨もぱらついたが、地域利用者の拡大を図るため友の会10団体が参加し、サーフビレッジを中心とした区域で各団体企画の立体的「まつり」を展開した。1,500名参加の盛況な催しどなつた。(2012/10/7)
東日本大震災 復興支援ライブ	主催者事務局 会場提供、 大会支援	TUBE、加山雄三、つるの剛士等が参加し海岸で盛大に開催され、サーフビレッジ及びその周辺をバックヤードに提供し支援した。約15,000名参加。(2011/8/27)
湘南藤沢カップ 全国中学生ビーチバレー 大会	運営支援	「ビーチバレー国内発祥の地」として全国的な知名度を誇る鵠沼海岸で開催された、全国唯一の中学生ビーチバレー大会に対し、公園として大会運営を支援した。(2012/8/18・19)
日本ライフセービング協会 20周年記念式典	運営支援	表彰式やミニライブなどを含むJLA創立20周年を記念する式典が噴水広場で開催され、公園として式典運営を支援した。(2011/10/8)
全日本ライフセービング 選手権大会	運営支援	片瀬西浜海岸で開催された日本ライフセービング協会主催による大会に対し、企業協力をを行うとともに、公園として大会運営を支援した。(2012/10/6・7)

提案書 12 「適切な積算、節減努力等」

(1) 積算（内訳）において特に留意した事項

■ 駐車場収入について

平成 19 年度～21 年度の平均収入額は 38,900 千円ですが、平成 22 年度～24 年度は、35,400 千円で前 3 ヶ年度との比較では、△3,500 千円の収入減となりました。近隣駐車場も同様に減収傾向となっており、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以降のサーファー、海水浴客の海離れのほか、自動車保有率の減少、少子高齢化や余暇活動の変化等が理由として考えられます。

平成 25 年度は、海水浴場組合の自主ルール見直し等の影響もあり、収入見込額 32,000 千円の確保が難しい状況であり、平成 26 年度以降の収入見込額は、消費税率の引上げにも留意し慎重に算出しています。

(2) 経費節減について工夫した点、努力した点等

支出計画においては指定管理者としての最新の経費実績を元に適正に計上しています。

■ 当社管理施設と連動した夜間巡回警備の委託

公園の夜間巡回警備を、7 月、8 月及び年末年始に警備会社に委託しております。当社の駐車場業務部門も、公園内の国道 134 号線沿いに位置している片瀬海岸地下駐車場、中部バス駐車場、中部駐車場、西部駐車場の運営管理を行っており夜間巡回警備を委託していることから、社内他部とも共同で夜間の公園内巡回警備を年間(365 日)通して実施することとし、平成 26 年度からの警備委託の経費節減を図ります。

■ ゴミ持ち帰りの原則徹底による廃棄物量の削減

湘南海岸公園内にゴミ箱(燃えるゴミ、ペットボトル・ビン、カン)を 10 箇所(サーフビレッジ 1、トイレ前 7、クラゲ広場等 2)設置しておりますが、サーフビレッジ 1 箇所、トイレ 7 箇所を除く 2 箇所については、平成 26 年度からゴミ箱を削減し経費の節減を図ります。

■ その他の経費節減の工夫・努力

日々の管理運営の中で経費節減に取り組んでおり、支出計画にも反映しています。

(具体的な取組み)

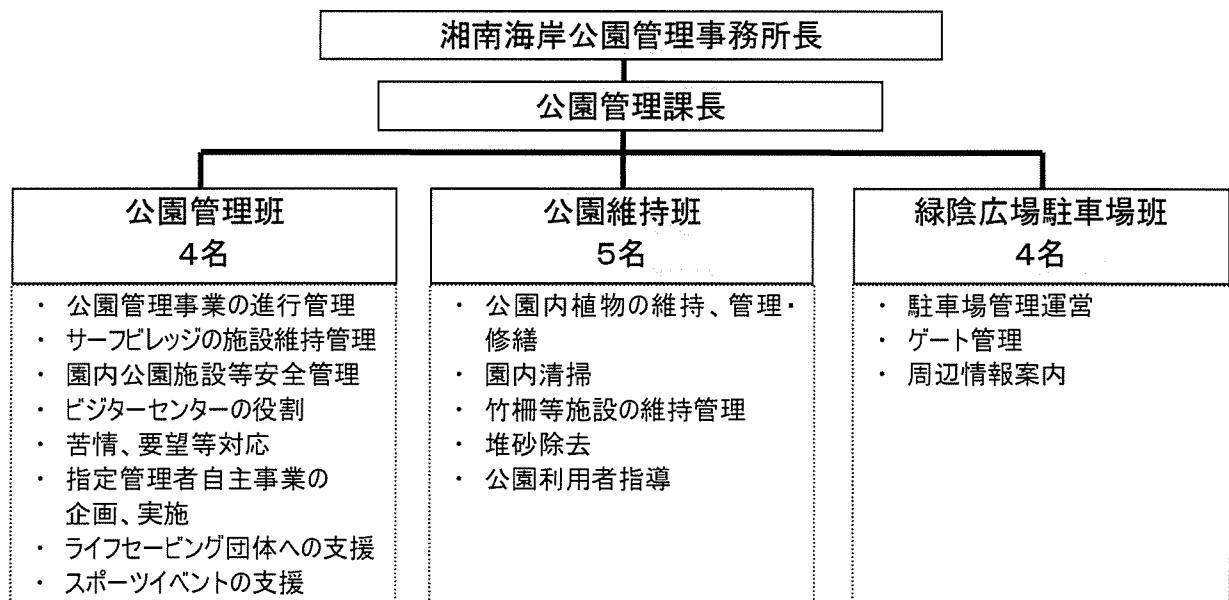
- ・白熱電球の照明を順次 LED 電球へ更新しています
- ・園内 8 箇所のトイレ及びトイレ周辺の外灯制御盤タイマー設定等の調整を行っています
- ・公園施設の維持修繕、清掃等で、委託によらず直営で実施する作業を増やしています
- ・長く使用できる施設・備品はできるだけ丁寧に使用し、修繕による延命化を図っています
- ・園内枯葉を堆肥処理しリサイクルしています
- ・発生材等を廃棄物として処分せずに園内で活用するなど、再資源化に努めています
- ・本社や他の管理施設との情報交換により、最適価格での発注に努めています
- ・駐車場に精算機を導入するなど、経費節減策については常に比較し検討しています

提案書 13 「人的な能力、執行体制」

(1) 指定期間を通じて効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況

これまでの指定管理期間も、安定的な人員体制を維持しながら、社員個々の能力や適性、経験等に応じた役割分担の微調整も行い、組織としての最適化に努めてまいりました。今後も、原則として、現在の体制を維持しつつ管理運営を行ってまいります。

■ 現地管理事務所の人員配置



■ 現地責任者の役割

管理事務所長	公園管理課長
<p>公園運営管理における統括管理責任者 藤沢土木事務所との連絡調整 公園管理課長以下への管理指示 利用者からの苦情、問い合わせ各種情報管理</p>	<p>指定管理者自主事業の企画、調整 業務計画の策定、重要事業の進行管理 公園友の会の運営に関すること 関係機関との連絡調整</p>

■ 管理事務所長の経歴

昭和 46 年 4 月	神奈川県に入庁 総務部をはじめ、7 部局 15 室課所に勤務
平成 24 年 3 月	神奈川県を退職
平成 24 年 4 月～	現職(湘南海岸公園管理事務所長)

■ 管理事務所長の資格等

甲種防火管理講習修了

■ 社員の役割

組織	職名	勤務	主な業務内容
公園管理部	管理事務所長	常勤	統括
公園管理課	公園管理課長	常勤	指定管理事業の推進、業務計画の策定、公園管理事業の進行管理
公園管理班	主任主事	常勤	予算の編成、執行、決算、監査
	スタッフA	常勤	公園管理システム、施設管理、駐車場管理、園内巡回
	スタッフB	非常勤	施設管理、園内巡回
	スタッフC	非常勤	イベント事業、自主事業、備品管理、園内巡回
	スタッフa		アルバイト(7・8月)
公園維持班	スタッフD	常勤	植物管理、小破修繕、利用指導
	スタッフE	非常勤	"
	スタッフF	非常勤	"
	スタッフG	非常勤	"
	スタッフH	非常勤	"
緑陰広場 駐車場班	スタッフI	非常勤	駐車場管理、ゲート管理、インフォメーション
	スタッフJ	非常勤	"
	スタッフK	非常勤	"
	スタッフL	非常勤	"
	スタッフb		アルバイト(7・8月)

■ 有資格者の配置状況

資格		配置状況		
公園・造園	公園管理運営士		2名(協力業者)	
	造園技能士	三級:	1名(本社)	
	造園施工管理技士	一級:	3名(協力業者)	
施設・設備	ボイラー技士	二級:	1名	
	電気工事士	第二種:	2名	
消防・救急	防火管理者	甲種:	4名	
	救急救命講習修了者	AED 含む:	4名(全社合計で35名)	
その他	食品衛生責任者		1名	
	危険物取扱者(乙種)	第4類:	1名	
	秘書検定	2級:	1名	
	ISO 内部監査者	9001 品質:	1名	14001 環境: 1名